

## 2-1 大雨の被害状況について

この度の大雨被害について何点か伺います。

28日から29日にかけて日本海側を中心に観測史上最多となる降水量の大雨に襲われ住宅被害、農漁業、道路、河川等被害をこうむり、被害速報も随時頂いておりますが、数日を経過していることもあり、現在取りまとめている範囲内でお知らせ頂きたい。

答弁者 秦 幸雄 危機対策課長

大雨による被害の状況についてであります。この度の大雨は、積丹町美国や寿都などの観測所で観測史上最多となる降水量を記録しているところ。

被害の状況は、7月30日に各委員の皆様にはFAX等でご報告申し上げたところですが、その後の動きもありましたので、改めてご報告申し上げます。

直近の被害状況は、8月2日9時現在の取りまとめで次のようになっているところ。

### 1. 被害の状況

#### ① 人的被害

人的被害についてはありませんでした。

#### ② 住家被害

住家被害については、一部損壊3棟、床上浸水50棟、床下浸水162棟と報告されております。

なお、被災した各自治体において現在も調査中でありますので、今後、被害数が増えたと見込まれます。

#### ③ 避難勧告等の状況

避難勧告等については、ピーク時には12市町村で1,783世帯に避難勧告又は避難指示が出されていましたが、現在は、全て解除されております。

#### ④ ライフラインの被害

ライフラインの被害については、水道については、岩内町で全町的に断水しましたが、現在は復旧しております。

次に、道路については、

国道の7路線が不通となりましたが、現在は一部を除き復旧しております。

道道については、42路線が不通となり、現在は、廻り湊橋の橋脚が沈下した古平町の道道古平神恵内線など12路線が、不通となっております。

### 2. その他の被害の状況

今回の大雨による被害額については、農業関係など各分野において現在調査中です。

## 2-2 各部と市町村との連携による復旧対応について

記録を更新する大雨でした、私も被害現場見て参りました、地元岩内での断水被害、自衛隊の災害派遣要請し給水対応をして頂いた、各市町村や総合振興局の行政機関はもとより民間の方々や維持管理をされている皆様に素早い対応を頂きながら、大雨の中の作業、そして各所で復旧活動を現在行っているところでもあります、島牧村ではこれから観光シーズンを向かえる村道が数カ所に渡りえぐり取られ崩壊、国道や漁港の崖崩れ、海や港の土砂や流木被害、古平町では道道の橋げたの崩落、水田や畑への被害、こうした被害の復旧は市町村単独でできるものではありません、しかも建設、農林水産、環境、又、市町村、道、国と各部・各所・各機関が重複することからそれぞれの連携のもと速やかな復旧作業が進められるべきと考えますが道としてはどのように対応されるのか伺います。

答弁者 秦 幸雄 危機対策課長

被害の復旧作業における道の対応についてであります、災害時の復旧に当たっては、関係機関が連携協力することが重要であることから、施設の管理者が実施する応急措置等が的確かつ円滑に実施されるよう、関係機関が連携協力しながら速やかな災害復旧を図ることを北海道地域防災計画に定めているところ。

道としては、市町村に対する災害査定に向けた技術支援を行うなど、地元自治体等と協力しながら早期に復旧が図られるよう取り組んで参りたいと考えているところ。

## 2-3 道及び市町村の防災対策について

備えあれば憂いなしといいますが、風水害、砂防災害等の土砂災害警戒区域 急傾斜地崩壊対策 地滑り、雪崩積雪災害、海岸浸食 地震対策等広範囲に様々な災害危機対策があり計画を義務付けしているものもありますが、以前、市町村の中では洪水ハザードマップの未整備地域もあると聞いていますが、こうした各種災害対策の市町村の対応と策定をどのように把握されているか又道はどのように関与しているのか伺います。

答弁者 秦 幸雄 危機対策課長

道及び市町村の防災対策についてであります。市町村が策定する地域防災計画の作成又は修正に当たっては、道として市町村から協議を受け、その中で計画内容を確認するとともに、地域の実情に即した計画の作成について助言しているところ。

また、市町村における洪水や津波などのハザードマップの作成状況については、随時調査を行うなどして把握しているところでありますが、洪水ハザードマップを作成している市町村が81.3%となっているところ。

道としては、マップ未作成の市町村に対して基礎資料の提供を行うなどして作成の促進を図っているところ。

## 指摘

北海道地域防災計画に於いて様々な災害対応が記されていますが、十数年来災害防止のため要請している河川や道路、海岸浸食など長い間整備が行われず地域住民の不安が解消されない状況にあり、早急な整備が必要と考えていますが、こうした事への整備対応を一元的に管理する機関の設置と、一方でいざ災害というときの施設の必要性を感じます、防災対策総合本部室や北海道防災会議の部員が参集する防災連絡員室が設置されていますかまだまだお粗末なものと感じています、本年1月当委員会で佐賀危機管理センターを視察調査して参りました、H17年10月から運用され、災害対策本部の設置、風水害総合訓練・国民保護・原子力の訓練、新型インフルエンザ対策本部にも活用されたと聞いています、情報収集用モニターやメディアゾーン、ボランティアゾーンなど設置され多機能を有する大変立派なセンターとなっております、近年以前には考えられない自然災害が多発生していることから、こうした防災センターの設置を考える必要性があると考えますので是非検討いただくことを指摘し質問を終わります。